

して尊重してケアをしていくという考え方である。「何を必要としているのか」「何を求めているのか」といった「心理的ニーズ」を理解し、どんな人にも個性があり、これまでの人生や人間関係などの要素を踏まえケアを行う。一人の人間として無条件に尊重される「愛」を中心に、1.自分らしさ (Identity) 2.結びつき (Attachment) 3.たずさわること (Occupation) 4.共にあること (Inclusion) 5.くつろぎ (Comfort) の5つの「心理的ニーズ」を満たすことが重要である。

3. 超高齢社会における認知症ケアとは「人生の晩年を穏やかに過ごせることを支えるケア」である。認知症者の身体的・心理的苦痛を緩和し、家族支援を充実することが求められる。これを実現するため介助者は「自分がケアするにあたり大切にしていること」「自分が目指しているところは、どこか」を考え、その答えを常に求められていることを自覚し援助を行わなければならないことが重要である。

最後に 副会長 横山 光昭氏より 謝辞・閉会の挨拶がありました。「福祉人材フォーラム」の席上で 当時 厚生労働大臣であった舛添 要一氏が『介護の日』を発表。設立後 17年経過しますが、まだまだ市民権を得ておらず、認知度が低いようです。

明石市保健福祉施設協会では 平成 27 年 11 月 11 日に 第1回 介護日のイベントを開始。毎年 明石市後援にて「介護の日」普及活動を展開。処が コロナ感染症が全国的に蔓延拡大し 4 年間休止を余儀なくされ、昨年より優良職員表彰を復活し、(同時に 適応対象者を CW のみならず 全職種に拡大) 令和 5 年より研修会も再開。

巷ではフレイル予防 (サルコペニア・ロコモティブ症候群) という言葉がよく使われます。いまいち 認知度は低い状況にあります。我々の職種は “自分の両親と思い 恋人と思い” ひたすら 心のこもった 心の通った 介護の日々。いずれは 誰もが高齢者となり 認知症を伴い 介護のお世話になります。

超高齢者に伴う認知症問題は 介護施設運営に於いて避けて通れない永遠の課題です。高見 美保教授を招聘し 記念講演会を開催。認知症の方々の 様々な症状の原因とその対応方法についての講義がありました。本日の 研修会の内容を施設の持ち帰り 是非 伝達講習を行なってほしいものです。と挨拶がありました。

高齢者には “今日する事がある、今日行く (教育) 処がある” が 認知症予防に繋がります。是非 “教育” してあげてください。

年齢で 出来るできない 決めないで
息切れた なんて 膝だけ 笑うんや

令和 5 年 霜 降

